学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1.　教育学部・教育学研究科　研究 1-1

教育学部・教育学研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 1-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 1-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準にある

［判断理由］

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度で専門的研究論文が 232 件（平成 16 年度 202 件）、教育に関する論文が 181 件、（平成 16 年度 179 件）、学術書・実務書・大学用テキスト等の研究業績が 81 件（平成 16 年度 80 件）、計 494 件（専任教員一名当たり 1.3 件）ある。研究資金の取得状況については、平成 16 年度から平成 19 年度までの科学研究費補助金（継続を含む）の採択数（採択金額）が、年平均 56.5(約 9,984 万円)、採択率が年平均 33.6%となっている。その他受託研究・受託事業などの受入れ状況は、平成 16 年度から 19 年度の 4 年間で、競争的外部資金が 20 件、一般受託研究・事業が 47 件、共同研究の受入れが 11 件、寄付金が 78 件となっていることは、相応の成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2.　研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準にある

［判断理由］

「研究成果の状況」について、教育学部・教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果を上げている。学術面では、卓越した研究成果として、ヒルベルト関数の特徴付け問題に

ついての研究成果、ショウジョウバエの嗅覚器の研究成果、キイロショウジョウバエの脳の神経回路網に性差があることを明らかにした研究成果等国際的に高い評価を受けている。社会、経済、文化面では、卓越した業績として、平成 17 年度第 34 回中原悌次郎優秀賞（同賞の歴代の受賞者は彫刻分野において卓越した評価を得ている）を受賞した創作活動に基づく「石走る（いはばしる)」（彫刻）があることは、相応の成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II　質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

相応に改善、向上している

［判断理由］

「相応に改善、向上している」と判断された事例が３件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。